

どに辟易もし、3ヶ月もあれば、はっきりと変わって行く東京の季節をなつかしく思ったりもした。

ところが、そんな私は、2月末頃から蟬の声が聞かれなくなり、はたるが姿を見せなくなったのに気がつき、季節の移り変わるのを見た思いで、心の休まるのを覚えた。そういえば、1月の猛暑も2月上旬のカーニバルを過ぎた頃からは、いくぶん和らぎ始めた様にも思われた。

また、5月頃になると、夏物に取って代ってウィンドーにはセーターなどの、いわゆる冬物が飾られ始めたりもした。そして、5月に入ると、さわやかな日が多くなり、陽の当たらない部屋の中ではセーターなどをほおったりする事が多くなった。また、道ゆく女性の中にはブーツをはいた者も現われ始めた。

しかし、季節の移り変わりの圧巻は、何んといってもアmendエイラの紅葉である。リオの海岸ぞいの街路樹に多い。このアmendエイラは、6月の初め頃から色づき始め、7月上・中旬には真赤になって葉を落とす。この他にも、いく分は紅葉する木々もあるが、アmendエイラの紅葉は見事で、その紅葉越しに見るリオの高層建築物群の眺めは、誠に素晴らしいものであった。ところが、このアmendエイラの紅葉の時期は、またアmendエイラの新緑の時期でもある。隣り同志の木が一方は紅葉しているのに、他方は新緑であったりする。

リオでは、冬の季節がなく、秋と春が同居する季節が現われるのである。

私の $\frac{1}{4}$ 世紀

伊部久子

◇はじめに

1954年の卒業式で、蠟山学長は「諸君は、今まで概念の世界で生きてこられたが、これからは実践の社会にふみこむのである。」といわれました。

今年は1979年、あれから、なんと25年、 $\frac{1}{4}$ 世紀がすぎているのです。こし方、ふりかえってみると、その生き様に悔いること多く、こうして記すこともためらいます。

◇昭和29年

当時は朝鮮動乱があったとはいえ景気の恩恵はまだ庶民に行きわたらず、私ども第二期生、7名中6名が公立の新制中学教員として就職しました。(あとの1名は国土地理院。)私は、江東区立中学。堀り割りに丸太が浮かび、やけただれ、さびついたトタンに囲まれた住居、林立する煙突が黒煙をはき出している街でした。校舎は、コンクリートがむき出し、教室のいくつかは、引揚者の住宅にあてられ、それが立ちのかされたまゝになっていました。お茶の水女大学の地理学教室とは雲泥のちがいです。1954年は、インドシナ戦争が終結し、米ソに対抗してネール、周恩来が華々しく登場して、平和五原則が確認された年です。生徒と私の年齢差は10才。戦災、敗戦の共通体験があるせいか中学生のわりには、平和の問題や婦人問題を共通に話し合った記憶があります。

◇昭和30年

先生の仕事と生徒たち。何もかもすばらしいことと受けとめました。勤務は暗くなるまで、朝は待

ちかねて学校に飛び出していきました。今、考えると、下町独特の暖かい雰囲気が生意気な新任の女の先生でもうけいれてくれたのでしょう。みんなが若くて勤勉でした。独身で20才代がひしめいている教員構成でしたから、青春の発露を学校に求めているのかもしれませんが。板橋から深川まで四つの電車の乗り継ぎをして1時間40分の通勤ですから、就職一年目に咯血。肺切除。2年半療養所に強制入院でした。戦列を離れて一人だけ引きかえす口惜しさはたまらないものでした。

◇昭和32年 結婚

◇昭和34年 35年

勤務評定斗争。教員の中に組合員、非組合員と分裂をもちこまれました。出産。

共働きと育児。老人(母親)とか手伝いに育児をまかせるべきでない。集団保育を確立しようと、はりきったものでした。団地の集会所のすみや、自宅を開放して、自主保育をはじめました。「ポストの数ほど保育所を……」これが私たちのスローガンでした。岩波や東大出版会の論集部の方たちを中心に成り立って成立した働く母の会を媒介として、保育所づくり連絡協議会が結成され、よく、子どもの手をひいて、厚生省や区役所に陳情にいったものです。安保のデモに参加した年です。

◇昭和38年

通勤は体にこたえます。教師の武器である声をつぶし、このまゝでは言葉を話せなくなるといわれました。ベビーブーム世代の高校進学をチャンスに高校に転勤しました。心身ともにゆとりができました。体の大きい生徒たちとよく渡り合いました。「女性問題研究会」を創設して婦人の解放、自立について生徒たちと意見を交換しました。彼ら彼女たちは今や30才、2人、3人の子育てをしながら、仕事を続けているたくましさをもっています。健康でゆたかな彼ら彼女達です。

◇昭和42年

また病気です。子どもが小学生になった安堵感でしょうか。栄養失調に起因する膠原病と診断されました。3ヶ月ねました。

◇昭和45年

安保改定。高校生も関心をもちました。

◇昭和53年

娘は高校卒業。入試のすさまじさを親として体験。たゞたゞ撫然とするばかりです。

さて私はやっぱり教師。地理の授業をいかに組み立てるかが私の今年の課題です。

(2回生)

娘 の こ と

鳥 潟 順 子

昭和37年に大学を出まして、はや17年がすぎ去ろうとしております。十年一昔と申しますが、それ以上の年月がすぎ去っていますのに、大学の四年間が昨日のようになつかしく、はつきりと思ひ出されます。安保のはげしい渦の中の4年間でしたが、それなりに充実した学生生活だったように思